

〈姫路城を中心としたまちづくりの考え方〉

姫路城、姫路駅、商店街がネットワークし、
回遊性のある、歩きたくなる
まちづくりを推進する。

- ◎魅力ある店舗、施設など「姫路ならではの」拠点づくりを進める。
- ◎拠点をつないで、一年を通じ、回遊できる仕掛けをつくる。
- ◎分かりやすく、人が歩きたくなる道、空間、景観を整える。

〈姫路駅周辺整備の考え方〉

「姫路ならではの」歴史と発展を感じさせる、
姫路城を望む正面玄関としての
駅舎と駅前をつくる。

- ◎姫路城を望み、姫路らしさを表現した、多世代が集える、ゆったりとやさしい駅舎と駅前づくりを進める。
- ◎姫路城、商店街とネットワークし、回遊性を持った人の流れをつくる拠点としての駅前づくりを進める。
- ◎乗り換えや移動、買い物やお手洗いが、あらゆる人に分かりやすく、きれいで、安心してできる駅前づくりを進める。
- ◎公的・文化的機能が充実し、周辺の商店街と一体となって利便性をより高めることができる駅前づくりを進める。
- ◎若い世代や、がんばる人たちが、出店しやすく、個性を発揮し、賑わいを生み出せる駅前づくりを進める。

〈駅前広場の考え方〉

「姫路ならではの」歴史が感じられ、
まちの回遊の拠点となる
賑わいのある広場をつくる

- ◎市民や商店街が主体となった賑わいづくりのできる広場をつくる。
- ◎「姫路ならではの」情報発信ができ、回遊の拠点となる広場をつくる。
- ◎公園道路と一体になり、姫路城や姫路の歴史を感じられる広場をつくる。
- ◎待ち合わせや休憩、時間つぶしのできる広場をつくる。

「姫路城を中心とした回遊性のあるまちづくりの考え方」

基本的な考え方

姫路城、姫路駅、商店街がネットワークし、回遊性のある、歩きたくなるまちづくりを推進する。

基本方針

具体的方針

◎魅力ある店舗、施設など「姫路ならでは」の拠点づくりを進める。

- ・ マグネット効果を持った、わざわざ買いに行きたくなる店づくりを進める。
- ・ 知的満足度の高い施設の誘致を図る。
- ・ 空き家、空き店舗の活用を図る。
- ・ 早起き商店街など、時間帯を工夫した店舗運営を行う。
- ・ 城周辺に集い楽しめる場所を配置する。
- ・ 「勘兵衛横丁」など姫路らしさを感じられる商店街づくりを行う。

◎拠点をつないで、一年を通じ、回遊できる仕掛けをつくる。

- ・ 姫路城の四季をアピールできる仕掛けをつくる。
- ・ 賑わいのポイントを放射状に分散配置する。
- ・ 休憩等、時間をつぶせるところを各所につくる。
- ・ イーグレ、大手前公園、市民会館など諸施設のネットワークと活用を図る。
- ・ 「姫路ならでは」の神話をアピールできるようにする。
- ・ 姫路の歴史を伝える町中美術館・博物館を開催する。
- ・ 姫路城を中心としたまちの歴史スタンプラリーを常設化する。

◎分かりやすく、人が歩きたくなる道、空間、景観を整える。

- ・ 大手前通りの公園道路化を図る。
- ・ 横断歩道を短くする計画を行う。
- ・ 歩行者が歩きやすく、散歩しやすい街路をつくる。
- ・ 寄り道を誘発する仕掛けをつくる。
- ・ 町名の由来や通りの名前を覚えやすい工夫をする。
- ・ 広域に広がっていき、分かりやすいサイン計画を行う。
- ・ 大手前通りと各通りの接点に通りの情報を明示する。
- ・ 中の門筋を歴史的景観に整え、西の回遊道路と位置づける。
- ・ 家老屋敷跡公園など、中の門筋に入っていくやすい仕掛けをつくる。

「姫路駅周辺整備プランの考え方」

基本的な考え方

「姫路ならでは」の歴史と発展を感じさせる、姫路城を望む正面玄関としての駅舎と駅前をつくる。

基本方針

具体的方針

◎姫路城を望み、姫路らしさを表現した、多世代が集える、ゆったりとやさしい駅舎と駅前づくりを進める。

- ・ 姫路の顔となるランドマーク性を持ち、姫路の情報発信ができる駅舎とする。
- ・ 駅利用者が姫路城を正面に望むことができる計画を行う。
- ・ あらゆる世代の市民が集える仕組みと仕掛けを用意する。

◎姫路城、商店街とネットワークし、回遊性を持った人の流れをつくる拠点としての駅前づくりを進める。

- ・ 商店街へのアクセスがしやすい計画を行う。
- ・ 商店街の入り口に人々が滞留しやすい計画を行う。
- ・ 広域に広がっていける分かりやすいサイン計画を行う。
- ・ 観光案内所などで幅広く姫路の情報が発信できる体制づくりを行う。
- ・ 電車の乗降以外に人が集まるソフトの企画を立案する。

◎乗り換えや移動、買い物やお手洗いが、あらゆる人に分かりやすく、きれいで、安心してできる駅前づくりを進める。

- ・ 来訪者に分かりやすい案内表示と案内の配置を行う。
- ・ ユニバーサルな考え方を施設づくりに徹底させる。
- ・ 駐輪対策を十分に行い、自転車利用者の使いやすさに配慮する。
- ・ 交通機関の乗り換えがスムーズにできる計画を行う。

◎公的・文化的機能が充実し、周辺の商店街と一体となって利便性をより高めることができる駅前づくりを進める。

- ・ 市民にとって利用しやすい公共施設を集約して設置する。
- ・ 文学館、歴史博物館、美術館、水族館、アトムの館など諸文化施設の「サテライトミュージアム」をつくる。
- ・ 市民にとって利用しやすい利便施設の誘致を図る。
- ・ 周辺商店街と一体となって利便性が図れる施設計画を行う。

◎若い世代や、がんばる人たちが、出店しやすく、個性を発揮し、賑わいを生み出せる駅前づくりを進める。

- ・ 若い世代や意欲ある人が出店しやすい条件設定を行う。

「姫路駅前広場の考え方」

基本的な考え方

「姫路ならではの」の歴史が感じられ、まちの回遊の拠点となる賑わいのある広場をつくる。

| 基本方針 | 具体的方針 |
|---|--|
| <p>◎市民や商店街が主体となった賑わいづくりのできる広場をつくる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・商店街を中心とした賑わいの場を設ける。(はりまマルシェ(市場)、朝市、昼市、夕市、屋台村等の開催) ・市民参加を中心とした賑わいの場を設ける。(子どもミュージアム、市民コンサート、市民大運動会の最終決勝戦、各種コンクール等の研究発表、ゆかた広場などの開催) ・文化的な催しを中心とした賑わいの場を設ける。(現代美術オブジェの配置、プロのコンサートの開催など) ・NPO等により、住民参加による企画・運営ができる仕組みを持つ。 ・まちのイベントに合わせ商店街が臨機応変な営業形態をとれるようにする。 ・日替わり、週代わりなどで、商店街の各団体がおもてなしをする場を設ける。 ・若い世代やがんばる人たちが一日出店できる仕組みを設ける。 |
| <p>◎「姫路ならではの」の情報発信ができ、回遊の拠点となる広場をつくる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ベロタクシーや人力車、レンタサイクルのステーションを設ける。 ・FMげんき等のサテライトスタジオを設ける。 ・立体的なランドマークを設ける。 ・親しみやすい観光案内所やおもてなし所、土産店等を設ける。 ・自転車の流れをつくり制限、誘導する仕組みを設ける。 |
| <p>◎公園道路と一体になり、姫路城や姫路の歴史を感じられる広場をつくる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・石垣や日本庭園等、姫路らしさを感じられる景観要素を取り入れる。 ・姫路城や姫路城郭の大きさを感じられる仕掛けを用意する。 ・公園道路とつながる芝生等の緑化を図る。 ・姫路の歴史が10分で分かる仕組みや、お城に関連した美術展を開催する。 |
| <p>◎待ち合わせや休憩、時間つぶしのできる広場をつくる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ベンチや可動の傘などを用いた、休み、集える場を用意する。 ・雨の日の対応ができる屋根や傘を設ける。 ・夏にはスプリンクラー等を用い、涼しさの演出ができるようにする。 ・大ビジョンテレビや大スクリーンを用いて各種の放映を行う。 ・三世代が日だまりで集える花畑を設ける。 |